

## ルールを正しく守る

ルールを「正しく守る」とは、ルールを生かしてラグビーを精一杯楽しむということです。ルールを生かすとは、ルールが決められているからと受身的・義務的に仕方なく守るのではなく、積極的にラグビーの進化を図ることで、ラグビーを愛し楽しむ精神と行動をいうのです。ルールを正しく守ってプレーし、running handling game の継続のレベルを高めることが期待されていますが、その為の場であるグラウンドを整備することも重要なことに変わりはないのです。

正しく守るには、まず正しく知らねばなりません。2003 年、競技場の元になる図が IRB のものと日本のルールブックとでは書かれていることが異なっていました。日本だけがローカルルールでいくというならば特別なことで認められなくはない事ですが、ルール改正は単なる文字の改正ではなく、問題になった事柄とそれについての議論が先行した結果の産物なのですから、留意し配慮しなければならないことなのです。ルール改正の前提にラグビー精神が基底に存在し生かされているのであって、ラグビーを愛し楽しむ心が脈々と流れていることを忘れてはならないのです。

タッチラインから 15m の破線は、ゴールライン手前 5m から内側へ引かれていたのが、ゴールラインの方へ 5m ひくことに改正されました。ゴール前のプレーを整理する目的の重要なものです。

タッチラインから 5m の破線は、ゴールラインから 5m の間は引かれていません。この間はラインアウトの投入が行われないのです。

ルールは、本来ゲームのオープン展開を志向する意思（原則）を堅持し追求して今日に至っています。前記の 2 つはそれに関わる問題です。グラウンドの線はラグビーを楽しむときに大切な条件なのです。ラグビー精神と改正の意味を知って、正しくまもることがラグビーを楽しむ者にとって大切な姿勢なのです。全国から高校生が集まってくる花園ラグビー場の 5m ラインは、日本のルールブックのものと異なって、ゴールラインから 5m の間に実線が引かれているのを見て寂しく思いました。ルール改正の意味を理解し、ラグビーを楽しむ道筋として、ルールを正しく守ることを皆で考えていくよい機会だと思いました。

2004.01.18  
西川 義行